

本資料のうち、枠囲みの内容は、  
営業秘密又は防護上の観点から  
公開できません

東海第二発電所 工事計画審査資料	
資料番号	工認-234 改1
提出年月日	平成30年6月27日

日本原子力発電株式会社  
東海第二発電所 工事計画審査資料  
原子炉冷却系統施設のうち  
残留熱除去設備  
(残留熱除去系)

(本文)

## 原子炉冷却系統施設

### 5 残留熱除去設備

#### 5.1 残留熱除去系

##### (2) 熱交換器

- ・常設

- a. 残留熱除去系熱交換器

##### (3) ポンプ

- ・常設

- a. 残留熱除去系ポンプ

##### (5) ろ過装置

- ・常設

- a. 残留熱除去系ストレーナ

##### (6) 安全弁及び逃がし弁

- ・常設

##### (7) 主要弁

- ・常設

##### (8) 主配管

- ・常設

5 残留熱除去設備に係る次の事項

5.1 残留熱除去系

(2) 熱交換器の名称，種類，容量，最高使用圧力（管側及び胴側の別に記載すること。），最高使用温度（管側及び胴側の別に記載すること。），伝熱面積，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変更後	
名 称			残留熱除去系 熱交換器	残留熱除去系 熱交換器 *16	
種 類	—		たて置U字管式 *1	変更なし	
容 量（設計熱交換量）	MW/個		53.0 以上 *3 (53.0 *4, *15)		
管側	最高使用圧力	MPa	3.45 *2		
	最高使用温度	℃	249		
胴側	最高使用圧力	MPa	3.45 *2		
	最高使用温度	℃	249		
伝 熱 面 積		m <sup>2</sup> /個			
主 要 寸 法	管 側	胴 内 径 *5	mm		2000 *4
		鏡 板 厚 さ *6	mm		(40.0 *4)
		鏡板の形状に係る寸法	mm		1000 *4, *7 (鏡板の内半径)
		管台外径（管側入口）	mm		520.0 *4, *7
		管台厚さ（管側入口）	mm		(40.0 *4, *7)
		管台外径（管側出口）	mm		520.0 *4, *7
		管台厚さ（管側出口）	mm		(40.0 *4, *7)
	胴 側	胴 フ ラ ン ジ 厚 さ	mm		(150.0 *4, *7)
		胴 内 径	mm		2000 *4
		胴 板 厚 さ *8	mm		(38.0 *4) (55.0 *4)
		鏡 板 厚 さ *8	mm		(65.0 *4)
		鏡板の形状に係る寸法	mm		2000 *4, *7 (鏡板の内面における長径)
					500 *4, *7 (鏡板の内面における短径の2分の1)
		管台外径（胴側入口）	mm	558.8 *4, *7	
管台厚さ（胴側入口）	mm	(14.6 *4, *7)			
管台外径（胴側出口）	mm	558.8 *4, *7			
管台厚さ（胴側出口）	mm	(14.6 *4, *7)			
胴 フ ラ ン ジ 厚 さ	mm	(150.0 *4, *7)			

(続き)

			変更前		変更後	
主要寸法	管板厚さ	mm	[ ] (230.0 <sup>*4</sup> )		変更なし	
	伝熱管外径	mm	[ ]			
	伝熱管厚さ	mm	[ ]			
	高さ <sup>*9</sup>	mm	7503 <sup>*4, *10</sup>			
材	管側	鏡板 <sup>*11</sup>	—	SB42 <sup>*12</sup>		
		胴フランジ	—	SF50 <sup>*7</sup>		
	胴側	胴板 <sup>*13</sup>	—	SB42		
		鏡板 <sup>*13</sup>	—	SB42		
		胴フランジ	—	SF50 <sup>*7</sup>		
料	管板	—	SFV1 Mod. <sup>*14</sup>			
	伝熱管	—	CNTF3-0			
個	数	—	2			
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	残留熱除去系 熱交換器 A 残留熱除去系 A <sup>*3</sup>	残留熱除去系 熱交換器 B 残留熱除去系 B <sup>*3</sup>		
	設置床	—	原子炉建屋 原子炉棟 EL. 2.00 m <sup>*3</sup>	原子炉建屋 原子炉棟 EL. 2.00 m <sup>*3</sup>		
	溢水防護上の区画番号	—	—			
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—			

- 注記 \*1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「縦形U字管式」と記載。  
 \*2: S I 単位に換算したもの。  
 \*3: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。  
 \*4: 公称値を示す。  
 \*5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室胴内径」と記載。  
 \*6: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室胴板厚」と記載。  
 \*7: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年10月30日付け49資庁第18032号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 残留熱除去系熱交換器の規格計算書」による。  
 \*8: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。  
 \*9: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全長」と記載。  
 \*10: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「7926 mm」と記載。  
 \*11: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室胴」と記載。  
 \*12: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SB42+モネルクラッド」と記載。  
 \*13: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

- \* 14 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SFV-1 mod.+モネルクラッド」と記載。
- \* 15 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「 $16.66 \times 10^6$  kcal/hr (停止時冷却モード)」と記載。
- \* 16 : 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (低圧注水系, 代替循環冷却系) 及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器スプレイ冷却系, サプレッション・プール冷却系, 代替循環冷却系) と兼用する。
- \* 17 : 記載の適正化を行う。既工事計画には  と記載。記載内容は設計図書による。

(3) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前			変更後					
名称			残留熱除去系ポンプ A*1	残留熱除去系ポンプ B*1	残留熱除去系ポンプ C*1	残留熱除去系ポンプ A*8	残留熱除去系ポンプ B*8	残留熱除去系ポンプ C*9			
ポンプ	種類	—	ターボ形*2			変更なし					
	容量	m <sup>3</sup> /h/個	1691.9 以上*3 (1691.9*4)								
	揚程*5	m	85.3 以上*3 (85.3*4)								
	最高使用圧力	MPa	吸込側 1.52*3 吐出側 3.50*3								
	最高使用温度	℃	182*3								
	主要寸法	吸込口径	mm	600*3, *4							
		吐出口径	mm	350*3, *4							
		ケーシング外径	mm	1100*3, *4							
		ケーシング厚さ	mm	□ (14.0*3, *4)							
		高さ	mm	9490*3, *4							
	材料	ケーシング	—	□							
		ケーシングカバー	—	□							
	個数	—	1*7	1*7	1*7						
	取付箇所	系統名 (ライン名)	—	残留熱除去系ポンプ A 残留熱除去系 A*6	残留熱除去系ポンプ B 残留熱除去系 B*6				残留熱除去系ポンプ C 残留熱除去系 C*6		
設置床		—	原子炉建屋原子炉棟 EL. -4.00 m*6	原子炉建屋原子炉棟 EL. -4.00 m*6	原子炉建屋原子炉棟 EL. -4.00 m*6						
溢水防護上の 区画番号		—	—			RB-B2-15	RB-B2-14	RB-B2-5			
	溢水防護上の 配慮が必要な 高さ	—	—			EL. -1.58 m 以上	EL. -1.58 m 以上	EL. -1.58 m 以上			
原動機	種類	—	誘導電動機			変更なし					
	出力	kW/個	680*4								
	個数	—	1*7	1*7	1*7						
	取付箇所	—	ポンプと同じ*6								

- 注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には独立した3系列を合わせた「ポンプ」と記載。
- \*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「立軸多段斜流型」と記載。
- \*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月5日付け49資庁第18033号にて認可された工事計画の添付図面「第2-2-2図 残留熱除去系ポンプ組立外形図」による。
- \*4：公称値を示す。
- \*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全揚程」と記載。
- \*6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- \*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には独立した3系列を合わせた個数「3」と記載。
- \*8：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧注水系、代替循環冷却系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器スプレイ冷却系、サブプレッション・プール冷却系、代替循環冷却系）と兼用する。
- \*9：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧注水系）と兼用する。

(5) ろ過装置の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前			変更後		
名称			残留熱除去系ストレーナ A*1	残留熱除去系ストレーナ B*1	残留熱除去系ストレーナ C*1	残留熱除去系ストレーナ A*2	残留熱除去系ストレーナ B*2	残留熱除去系ストレーナ C*3
種類	—		円錐支持ディスク形			変更なし		
容量	m <sup>3</sup> /h/組		1691.9 以上*4, *5 (1691.9*6)					
最高使用圧力	MPa*7		— [0.310*8, *9]					
最高使用温度	℃		104.5					
主要寸法	外径	mm				変更なし		
	長さ	mm						
	最小ディスクセット幅	mm						
	ディスク間ギャップ	mm						
	トップフランジ外径	mm						
	ボトムスペーサ外径	mm						
	ディスクセット枚数	—						
材料	多孔プレート	—	SUS304L			変更なし		
	リブ	—	SUS304					
個数	—		2 (1組) *13	2 (1組) *13	2 (1組) *13			
*4 取付箇所	系統名 (ライン名)	—	残留熱除去系 ストレーナ A 残留熱除去系 A*4	残留熱除去系 ストレーナ B 残留熱除去系 B*4	残留熱除去系 ストレーナ C 残留熱除去系 C*4			
	設置床	—	原子炉格納容器 EL. -4.00 m*14	原子炉格納容器 EL. -4.00 m*14	原子炉格納容器 EL. -4.00 m*14			
	溢水防護上の 区画番号	—	—					
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—					

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には独立した3系列を合わせた「残留熱除去系ストレーナ」と記載。

\*2：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧注水系、代替循環冷却系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減装置その他の安全設備（格納容器スプレイ冷却系、サブプレッション・プール冷却系、代替循環冷却系）と兼用する。

\*3：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧注水系）と兼用する。

\*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。



- \*5：残留熱除去系ポンプ 1 台の定格容量を示す。
- \*6：公称値を示す。
- \*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「kPa」と記載。
- \*8：残留熱除去系ストレーナは、その機能及び構造上の耐圧機能を必要としないため、最高使用圧力を設定しないが、ここでは、サブプレッション・チェンバの最高使用圧力を [ ] 内に示す。
- \*9：kPa から MPa に換算した値である。
- \*10：重大事故等時の値を示す。
- \*11：圧損評価長さを示す。
- \*12：ボトムスペーサに接続するディスクセット幅を示す。
- \*13：記載の適正化を行う。既工事計画書には独立した 3 系列を合わせた「6」と記載。残留熱除去系ストレーナは、独立した 3 系列のそれぞれで 2 個を 1 組として使用する。
- \*14：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成 20 年 4 月 7 日付け平成 20・02・29 原第 41 号にて認可された工事計画の添付図面「第 1-4 図 残留熱除去系ストレーナの配置を明示した図面」による。

(6) 安全弁及び逃がし弁の名称，種類，吹出圧力，吹出量，主要寸法，材料，駆動方法，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前*1	変更後
名 称			E12-F005	変更なし
種 類	—	非平衡型		
吹 出 圧 力	MPa	1.52		
吹 出 量	kg/h/個			
主 要 寸 法	呼 び 径	—	25 A	
	の ど 部 の 径	mm		
	弁 座 口 の 径	mm		
	リ フ ト	mm		
材 料 ( 弁 箱 )		—		
駆 動 方 法		—	—	
個 数		—	1	
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	E12-F005 残留熱除去系	
	設 置 床	—	原子炉建屋原子炉棟 EL. 2.00 m	
	溢水防護上の区画番号	—		
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—	

注記 \*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

\*2：公称値を示す。

		変 更 前* <sup>1</sup>			変 更 後		
名 称		E12-F025A, B, C			E12-F025A* <sup>3</sup>	E12-F025B* <sup>3</sup>	E12-F025C* <sup>4</sup>
種 類	—	非平衡型			変更なし		
吹 出 圧 力	MPa	3.45					
吹 出 量	kg/h/個						
主 要 寸 法	呼 び 径	—	25 A				
	の ど 部 の 径	mm					
	弁 座 口 の 径	mm					
	リ フ ト	mm					
材 料 ( 弁 箱 )	—						
駆 動 方 法	—	—					
個 数	—	3					
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	E12-F025A 残留熱除去系 A	E12-F025B 残留熱除去系 B	E12-F025C 残留熱除去系 C		
	設 置 床	—	原子炉建屋原子炉棟 EL. 8.20 m	原子炉建屋原子炉棟 EL. 20.30 m	原子炉建屋原子炉棟 EL. 20.30 m		
	溢水防護上の区画番号	—	—				
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—					

注記 \*1: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*2: 公称値を示す。

\*3: 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧注水系、代替循環冷却系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他安全設備（格納容器スプレイ冷却系、代替循環冷却系）と兼用。

\*4: 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧注水系、低圧代替注水系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他安全設備（低圧代替注水系）と兼用。

		変更前* <sup>1</sup>	変更後
名 称		E12-FF028	
種 類	—	平衡型	
吹 出 圧 力	MPa	8.62	
吹 出 量	kg/h/個		
主 要 寸 法	呼 び 径	—	25 A
	の ど 部 の 径	mm	
	弁 座 口 の 径	mm	
	リ フ ト	mm	
材 料 ( 弁 箱 )		—	
駆 動 方 法		—	—
個 数		—	1
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	E12-FF028 残留熱除去系
	設 置 床	—	原子炉建屋原子炉棟 EL. 14.00 m
	溢水防護上の区画番号	—	
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—

変更なし

注記 \*1: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*2: 公称値を示す。

- (7) 主要弁の名称，種類，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，駆動方法，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変更後
名 称			E12-F008* <sup>1</sup>	変更なし
種 類	—		止め弁* <sup>2</sup>	
最 高 使 用 圧 力	MPa		8.62* <sup>3</sup>	
最 高 使 用 温 度	℃		302* <sup>3</sup>	
主 要 寸 法	呼 び 径	—	500 A	
	弁 箱 厚 さ	mm		
	弁 ふ た 厚 さ	mm		
材 料	弁 箱	—		
	弁 ふ た	—		
	弁 体	—		
駆 動 方 法	—		電気作動* <sup>5</sup>	
個 数	—		1	
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	E12-F008 残留熱除去系 A* <sup>4</sup>	
	設 置 床	—	原子炉建屋原子炉棟 EL. 14.00 m* <sup>4</sup>	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	RB-2-3
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		EL. 15.45 m 以上

注記 \*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「仕切弁」と記載。

\*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 51 年 8 月 30 日付け建建発第 98 号にて軽微変更を届け出した工事計画書の添付図面「第 2-21 図 残留熱除去系主要弁構造図 仕切弁」による。

\*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「電動式 (DC)」と記載。

		変更前	変更後	
名 称		E12-F009* <sup>1</sup>	変更なし	
種 類	—	止め弁* <sup>2</sup>		
最 高 使 用 圧 力	MPa	8.62* <sup>3</sup>		
最 高 使 用 温 度	℃	302* <sup>3</sup>		
主 要 寸 法	呼 び 径	—		500 A
	弁 箱 厚 さ	mm		□
	弁 ふ た 厚 さ	mm		
材 料	弁 箱	—		
	弁 ふ た	—		
	弁 体	—		
駆 動 方 法		—		電気作動* <sup>5</sup>
個 数		—		1
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—		E12-F009 残留熱除去系 A* <sup>4</sup>
	設 置 床	—		原子炉格納容器 EL. 14.00 m* <sup>4</sup>
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		

- 注記 \*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。  
 \*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「仕切弁」と記載。  
 \*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，昭和 51 年 8 月 30 日付け建建発第 98 号にて軽微変更を届け出した工事計画書の添付図面「第 2-20 図 残留熱除去系主要弁構造図 仕切弁」による。  
 \*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。  
 \*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「電動式 (AC)」と記載。

		変更前	変更後	
名 称		E12-F050A	変更なし	
種 類	—	逆止め弁		
最 高 使 用 圧 力	MPa	10.69* <sup>1</sup>		
最 高 使 用 温 度	℃	302* <sup>1</sup>		
主 要 寸 法	呼 び 径	—		300 A
	弁 箱 厚 さ	mm		
	弁 ふ た 厚 さ	mm		
材 料	弁 箱	—		
	弁 ふ た	—		
	弁 体	—		
駆 動 方 法		—		窒素作動* <sup>2</sup>
個 数		—		1
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—		E12-F050A 残留熱除去系 A* <sup>3</sup>
	設 置 床	—		原子炉格納容器 EL. 14.00 m* <sup>3</sup>
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		

注記 \*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成 11 年 3 月 3 日付け平成 11・02・24 資第 52 号にて認可された工事計画の添付書類「IV-1-1-2 残留熱除去系主要弁 E12-F050A の強度計算書」による。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「窒素作動 (テストブル)」と記載。

\*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

		変更前	変更後*4
名 称		E12-F050B	
種 類	—	逆止め弁	
最 高 使 用 圧 力	MPa	10.69*1	
最 高 使 用 温 度	℃	302*1	
主 要 寸 法	呼 び 径	—	300 A
	弁 箱 厚 さ	mm	[Redacted]
	弁 ふ た 厚 さ	mm	
材 料	—		
弁 箱	—		
弁 ふ た	—		
弁 体	—		
駆 動 方 法		—	窒素作動*3
個 数		—	1
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	E12-F050B 残留熱除去系 B*2
	設 置 床	—	原子炉格納容器 EL. 14.00 m*2
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	

変更なし

注記 \*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 51 年 8 月 30 日付け建建発第 98 号にて軽微変更を届け出した工事計画書の添付図面「第 2-22 図 残留熱除去系主要弁構造図 テスタブルチェックバルブ」による。

\*2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「窒素作動（テストブル）」と記載。

\*4：E12-F050B については取替えを実施する。



		変更前		変更後		
名称		E12-F053A, B* <sup>1</sup>		変更なし		
種類	—	止め弁* <sup>2</sup>				
最高使用圧力	MPa	10.69* <sup>3</sup>				
最高使用温度	℃	302* <sup>3</sup>				
主要寸法	呼び径	—	300 A		[ ]	
	弁箱厚さ	mm	[ ]			
	弁ふた厚さ	mm	[ ]			
材料	弁箱	—	[ ]		変更なし	
	弁ふた	—				
	弁体	—			[ ]	
駆動方法		—	電気作動* <sup>5</sup>		変更なし	
個数		—	2			
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	E12-F053A 残留熱除去系 A* <sup>4</sup>	E12-F053B 残留熱除去系 B* <sup>4</sup>		
	設置床	—	原子炉建屋 原子炉棟 EL. 14.00 m* <sup>4</sup>	原子炉建屋 原子炉棟 EL. 14.00 m* <sup>4</sup>		
	溢水防護上の 区画番号	—	—		RB-2-2	RB-2-4
	溢水防護上の配慮 が必要な高さ	—	—		EL. 15.78 m 以上	EL. 15.50 m 以上

注記 \*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「玉形弁」と記載。

\*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和51年8月30日付け建建発第98号にて軽微変更を届け出した工事計画書の添付図面「第2-23図 残留熱除去系主要弁構造図 玉形弁」による。

\*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「電動式 (AC)」と記載。

		変更前			変更後	
名	称	E12-F041A, B, C* <sup>1</sup>			変更なし	
種	類	逆止め弁* <sup>2</sup>				
最	高 使 用 圧 力	MPa	8.62* <sup>3</sup>			
最	高 使 用 温 度	℃	302* <sup>3</sup>			
主 要 寸 法	呼 び 径	—	300 A			
	弁 箱 厚 さ	mm	[ ]			
	弁 ふ た 厚 さ	mm	[ ]			
材 料	弁 箱	—	[ ]			
	弁 ふ た	—	SB480 相当 [ ]* <sup>4</sup>			
	弁 体	—	SF490A 相当 [ ]* <sup>4</sup>			
駆 動 方 法	—	窒素作動* <sup>5</sup>				
個 数	—	1				
取 付 箇 所	系 統 名 (ライン名)	—	E12-F041A 残留熱除去系 A* <sup>4</sup>	E12-F041B 残留熱除去系 B* <sup>4</sup>		E12-F041A 残留熱除去系 C* <sup>4</sup>
	設 置 床	—	原子炉格納 容器 EL. 20.30 m* <sup>4</sup>	原子炉格納 容器 EL. 20.30 m* <sup>4</sup>		原子炉格納 容器 EL. 29.00 m* <sup>4</sup>
	溢水防護上の 区画番号	—	[ ]			
	溢水防護上の 配慮が必要な 高さ	—	—			

注記 \*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁」と記載。

\*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和51年8月30日付け建建発第98号にて軽微変更を届け出した工事計画書の添付図面「第2-25図 残留熱除去系主要弁構造図 テスタブルチェックバルブ」による。

\*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「窒素作動（テストブル）」と記載。

		変更前			変更後		
名称		E12-F042A, B, C* <sup>1</sup>			変更なし		
種類	—	止め弁* <sup>2</sup>					
最高使用圧力	MPa	8.62* <sup>3</sup>					
最高使用温度	℃	302* <sup>3</sup>					
主要寸法	呼び径	—	300 A				
	弁箱厚さ	mm	□				
	弁ふた厚さ	mm					
材料	弁箱	—					
	弁ふた	—					
	弁体	—					
駆動方法	—	電気作動* <sup>5</sup>					
個数	—	3					
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	E12-F042A 残留熱除去系 A* <sup>4</sup>	E12-F042B 残留熱除去系 B* <sup>4</sup>	E12-F042C 残留熱除去系 C* <sup>4</sup>		
	設置床	—	原子炉建屋原子炉棟 EL. 20.30 m* <sup>4</sup>	原子炉建屋原子炉棟 EL. 20.30 m* <sup>4</sup>	原子炉建屋原子炉棟 EL. 20.30 m* <sup>4</sup>		
溢水防護上の 区画番号	—	—			RB-3-1	RB-3-8	RB-3-8
	溢水防護上の配慮が 必要な高さ				—	EL. 20.50 m 以上	EL. 24.56 m 以上

注記 \*1: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

\*2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「仕切弁」と記載。

\*3: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 51 年 8 月 30 日付け建建発第 98 号にて軽微変更を届け出した工事計画書の添付図面「第 2-26 図 残留熱除去系主要弁構造図 仕切弁」による。

\*4: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「電動式 (AC)」と記載。

		変更前*	変更後	
名 称		E12-F023	変更なし	
種 類	—	止め弁		
最 高 使 用 圧 力	MPa	8.62		
最 高 使 用 温 度	℃	302		
主 要 寸 法	呼 び 径	—		150 A
	弁 箱 厚 さ	mm		□
	弁 ふ た 厚 さ	mm		
材 料	弁 箱	—		
	弁 ふ た	—		
駆 動 方 法		—		電気作動
個 数		—		1
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—		E12-F023 残留熱除去系 A
	設 置 床	—		原子炉建屋原子炉棟 EL. 29.00 m
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		

注記 \*：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

		変更前		変更後		
名称		E12-F027A, B* <sup>1</sup>		変更なし		
種類	—	止め弁* <sup>2</sup>				
最高使用圧力	MPa	3.45* <sup>3</sup>				
最高使用温度	℃	174* <sup>3</sup>				
主要寸法	呼び径	—	100 A			
	弁箱厚さ	mm				
	弁ふた厚さ	mm				
材料	弁箱	—				
材料	弁ふた	—				
駆動方法		—	電気作動* <sup>5</sup>			
個数		—	2			
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	E12-F027A 残留熱除去系 A* <sup>4</sup>	E12-F027B 残留熱除去系 B* <sup>4</sup>		
	設置床	—	原子炉建屋 原子炉棟 EL. 8.20 m* <sup>4</sup>	原子炉建屋 原子炉棟 EL. 8.20 m* <sup>4</sup>		
	溢水防護上の 区画番号	—	—		RB-1-1	RB-1-2
	溢水防護上の 配慮が必要な 高さ	—			EL. 8.40 m 以上	EL. 9.60 m 以上

- 注記 \*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。
- \*2：記載の記載の適正化を行う。既工事計画書には「仕切弁」と記載。
- \*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月5日付け49資庁第18033号にて認可された工事計画書の添付図面「第2-2-4図その6 残留熱除去系主要弁構造図 仕切弁」による。
- \*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- \*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「電動式 (AC)」と記載。

		変更前		変更後		
名称		E12-F024A, B* <sup>1</sup>		変更なし		
種類	—	止め弁* <sup>2</sup>				
最高使用圧力	MPa	3.45* <sup>3</sup>				
最高使用温度	℃	174* <sup>3</sup>				
主要寸法	呼び径	—	400 A			
	弁箱厚さ	mm	□			
	弁ふた厚さ	mm				
材料	弁箱	—				
	弁ふた	—				
駆動方法		—	電気作動* <sup>5</sup>			
個数		—	2* <sup>6</sup>			
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	E12-F024A 残留熱除去系 A* <sup>4</sup>	E12-F024B 残留熱除去系 B* <sup>4</sup>		
	設置床	—	原子炉建屋 原子炉棟 EL. 8.20 m* <sup>4</sup>	原子炉建屋 原子炉棟 EL. 20.30 m* <sup>4</sup>		
	溢水防護上の 区画番号	—	—		RB-1-1	RB-3-2
	溢水防護上の 配慮が必要な 高さ	—			EL. 8.40 m 以上	EL. <b>20.31</b> m 以上

注記 \*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

\*2：記載の記載の適正化を行う。既工事計画書には「玉形弁」と記載。

\*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和51年8月30日付け建建発第98号にて軽微変更を届け出した工事計画書の添付図面「第2-28図 残留熱除去系主要弁構造図 玉形弁」による。

\*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「電動式 (AC)」と記載。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には弁 E12-F021 を含めた個数である「3」と記載。

		変更前*		変更後		
名称		E12-F048A, B		変更なし		
種類	—	止め弁				
最高使用圧力	MPa	3.45				
最高使用温度	℃	174				
主要寸法	呼び径	—	450 A			
	弁箱厚さ	mm				
	弁ふた厚さ	mm				
材料	弁箱	—				
	弁ふた	—				
駆動方法		—	電気作動			
個数		—	2			
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	E12-F048A 残留熱除去系 A	E12-F048B 残留熱除去系 B		
	設置床	—	原子炉建屋 原子炉棟 EL. 2.00 m	原子炉建屋 原子炉棟 EL. 2.00 m		
	溢水防護上の 区画番号	—	—		RB-B1-4	RB-B1-3
	溢水防護上の 配慮が必要な 高さ	—			EL. 2.59 m 以上	EL. 2.38 m 以上

注記 \* : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(8) 主配管（使用済燃料貯蔵槽の補給及び冷却に用いるものを含む。）の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し、可搬型の場合は、個数及び取付箇所を付記すること。）

・常設

		変 更 前					変 更 後						
名 称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
残 留 熱 除 去 系	*10 残留熱除去系ストレーナ A ～ サブプレッション・チェンバ	-[0.310]*45	104.5			GSTPL 相当 	*29 残留熱除去系ストレーナ A ～ サブプレッション・チェンバ	変更なし -[0.493]*3,*45	変更なし 148*3	変更なし			
	*10 残留熱除去系ストレーナ B ～ サブプレッション・チェンバ	-[0.310]*45	104.5			GSTPL 相当 	*29 残留熱除去系ストレーナ B ～ サブプレッション・チェンバ	変更なし -[0.493]*3,*45	変更なし 148*3	変更なし			
	*10 残留熱除去系ストレーナ C ～ サブプレッション・チェンバ	-[0.310]*45	104.5			GSTPL 相当 	*30 残留熱除去系ストレーナ C ～ サブプレッション・チェンバ	変更なし -[0.493]*3,*45	変更なし 148*3	変更なし			
	*11 サブプレッション・チェンバ ～ 弁 E12-F004A	0.86*1	100	609.6	 (9.5*2)	SM41B	*29 サブプレッション・チェンバ ～ 弁 E12-F004A	変更なし	変更なし 148*3	変更なし			
	*11 弁 E12-F004A ～ 残留熱除去系ポンプ A 吸込管合流点	1.52*1	174	609.6	 (9.5*2,*5)	SM50B	*29 弁 E12-F004A ～ 残留熱除去系ポンプ A 吸込管合流点	変更なし					
	*11 残留熱除去系ポンプ A 吸込管合流点 ～ 残留熱除去系ポンプ A	1.52*1	174	609.6	 (9.5*2,*5)	SM50B	*29 残留熱除去系ポンプ A 吸込管合流点 ～ 残留熱除去系ポンプ A	変更なし					
	*11 サブプレッション・チェンバ ～ 弁 E12-F004B	0.86*1	100	609.6	 (9.5*2,*5)	SM41B	*29 サブプレッション・チェンバ ～ 弁 E12-F004B	変更なし	変更なし 148*3	変更なし			



(続き)

変		更		前			変		更		後		
名	称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名	称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
残 留 熱 除 去 系	*11 弁 E12-F004B ～ 残留熱除去系ポンプ B 吸込管合流点	1.52*1	174	609.6	 (9.5*2,*5)	SM50B	残 留 熱 除 去 系	*29 弁 E12-F004B ～ 残留熱除去系ポンプ B 吸込管合流点	変更なし				
	*11 残留熱除去系ポンプ B 吸込管合流点 ～ 残留熱除去系ポンプ B	1.52*1	174	609.6	 (9.5*2,*5)	SM50B		*29 残留熱除去系ポンプ B 吸込管合流点 ～ 残留熱除去系ポンプ B	変更なし				
	*12 再循環ポンプ系吸込管分岐点 ～ 弁 E12-F009	8.62*1	302	508.0	 (32.5*2,*5)	SUS304TP		変更なし					
	*12 弁 E12-F009 ～ 弁 E12-F008	8.62*1	302	508.0	 (32.5*2,*5)	SUS304TP		変更なし					
	*13 弁 E12-F008 ～ 原子炉停止時冷却系 配管分岐点	1.52*1	174	508.0*7	9.5*2,*7	STPT42*4		変更なし					
				508.0	 (9.5*2)	SM41B							
				609.6*7 /508.0*7	 (9.5*2,*7) (9.5*2,*7)	SM50B*7							
				609.6	 (9.5*2,*5)	SM50B							
	*13 原子炉停止時冷却系 配管分岐点 ～ 残留熱除去系ポンプ A 吸込管合流点	1.52*1	174	609.6	 (9.5*2,)	SM50B		変更なし					
				609.6*7 /457.2*7	 (9.5*2,*7) (9.5*2,*7)	SM50B*7							
457.2				 (9.5*2)	SM41B								
457.2*4				9.5*2,*4	STPT42*4								

(続き)

変 更 前						変 更 後							
名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料		
残 留 熱 除 去 系	*13 原子炉停止時冷却系 配管分岐点 ～ 残留熱除去系ポンプ B 吸込管合流点	1.52*1	174	457.2	<input type="text" value="9.5"/> (9.5*2)	SM41B	変更なし	—*6					
				457.2*7	9.5*2,*7	STPT42*4							
	*13 残留熱除去系ポンプ C 吸込管分岐点 ～ 残留熱除去系ポンプ C 吸込管合流点	1.52*1	174	457.2	<input type="text" value="9.5"/> (9.5*2)	SM41B							
				457.2*7	9.5*2,*7	STPT42*4							
	*14 残留熱除去系ポンプ A ～ 残留熱除去系熱交換器 A バイパス管分岐点	3.45*1	174	457.2*7 /355.6*7	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2,*7) (11.1*2,*7)	SM41B*7						*29 残留熱除去系ポンプ A ～ 残留熱除去系熱交換器 A バイパス管分岐点	変更なし
				457.2	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2)	SM41B							
				457.2*7	14.3*2,*7	STPT42*4							
	*14 残留熱除去系熱交換器 A バイパス管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器 A	3.45*1	174	457.2	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2)	SM41B						*29 残留熱除去系熱交換器 A バイパス管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器 A	変更なし
				457.2*7	14.3*2,*7	STPT42*4							
		3.45*1	249	457.2*7	14.3*2,*7	STPT42*4							
				558.8*7 /457.2*7	<input type="text" value="15.9"/> (15.9*2,*7) (14.3*2,*7)	SM41B*7							
	*14 残留熱除去系ポンプ B ～ 残留熱除去系熱交換器 B バイパス管分岐点	3.45*1	174	355.6	11.1*2	STPT42						*29 残留熱除去系ポンプ B ～ 残留熱除去系熱交換器 B バイパス管分岐点	変更なし
				457.2*7 /355.6*7	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2,*7) (11.1*2,*7)	SM41B*7							
				457.2	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2)	SM41B							
				457.2*7	14.3*2,*7	STPT42*4							

(続き)

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
*14 残留熱除去系熱交換器 B バイパス管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器 B	3.45*1	174	457.2	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2)	SM41B	*29 残留熱除去系熱交換器 B バイパス管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器 B	変更なし				
	3.45*1	249	457.2*7	14.3*2,*7	STPT42*4		変更なし				
			457.2	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2)	SM41B						
			558.8*7 /457.2*7	<input type="text" value="15.9"/> (15.9*2,*7) (14.3*2,*7)	SM41B*7						
*15 残留熱除去系熱交換器 A ～ A 系統代替循環冷却系 ポンプ吸込管分岐点	3.45*1	249	558.8*7 /457.2*7	<input type="text" value="15.9"/> (15.9*2,*7) (14.3*2,*7)	SM41B*7	*29 残留熱除去系熱交換器 A ～ A 系統代替循環冷却系 ポンプ吸込管分岐点	変更なし	変更なし	変更なし		SGV410
			457.2	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2)	SM41B				変更なし		SGV410
			457.2*7	14.3*2,*7	STPT42*4				-		
			-						457.2	14.3*2	14.3*2
*15 A 系統代替循環冷却系 ポンプ吸込管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器 A 出口管合流点	3.45*1	249	457.2	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2)	SM41B	*31 A 系統代替循環冷却系 ポンプ吸込管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器 A 出口管合流点	変更なし	変更なし	変更なし		SGV410
	3.45*1	174	457.2	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2)	SM41B				変更なし		
*15 残留熱除去系熱交換器 A 出口管合流点 ～ A 系統代替循環冷却系 ポンプ吐出管合流点	3.45*1	174	457.2	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2)	SM41B	*31 残留熱除去系熱交換器 A 出口管合流点 ～ A 系統代替循環冷却系 ポンプ吐出管合流点*31	変更なし				
			457.2*7	14.3*2,*7	STPT42*4						

(続き)

変		更		前			変		更		後		
名	称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名	称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
残 留 熱 除 去 系	*15 A 系統代替循環冷却系 ポンプ吐出管合流点 ～ A 系統ドライウェル スプレイ配管分岐点	3.45*1	174	—			*32 A 系統代替循環冷却系 ポンプ吐出管合流点 ～ A 系統ドライウェル スプレイ配管分岐点	変更なし	変更なし	457.2 /457.2 /216.3	14.3*2 /14.3*2 /8.2*2	STPT410	変更なし
				457.2	□ (14.3*2)	SM41B							
				457.2*7	14.3*2,*7	STPT42*4							
	*15 A 系統ドライウェル スプレイ配管分岐点 ～ A 系統テスト配管分岐点	3.45*1	174	406.4	□ (12.7*2)	SM50B	*33 A 系統ドライウェル スプレイ配管分岐点 ～ A 系統テスト配管分岐点	変更なし					
	*15 A 系統テスト配管分岐点 ～ 低圧代替注水系 残留熱除去系配管 A 系合流点	3.45*1	174	406.4	□ (12.7*2,*5)	SM50B	*34 A 系統テスト配管分岐点 ～ 低圧代替注水系 残留熱除去系配管 A 系合流点	変更なし					
	*15 低圧代替注水系 残留熱除去系配管 A 系合流点 ～ A 系統原子炉注水管分岐点	3.45*1	174	—			*35 低圧代替注水系 残留熱除去系配管 A 系合流点 ～ A 系統原子炉注水管 分岐点	変更なし	変更なし	406.4 /406.4 /216.3	12.7*2 /12.7*2 /8.2*2	STPT410	変更なし
406.4				□ (12.7*2,*5)	SM50B								
		3.45	174	406.4 /406.4 /267.4*4	12.7*2 /12.7*2 /9.3*2,*4	STPT410							

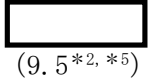
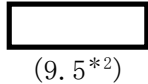

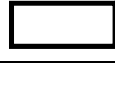
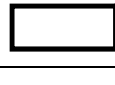

(続き)

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
*15 A 系統原子炉注水管分岐点 ～ 格納容器スプレイヘッド A (ドライウェル側)	3.45*1	174	406.4	<input type="text" value="12.7"/> (12.7*2,*5)	SM50B	*35 A 系統原子炉注水管分岐点 ～ 格納容器スプレイヘッド A (ドライウェル側)	変更なし				
	3.45*1	77	406.4	<input type="text" value="12.7"/> (12.7*2,*5)	SM50B		変更なし	変更なし 148*3	変更なし		
*15 残留熱除去系熱交換器 B ～ B 系統代替循環冷却系 ポンプ吸込管分岐点	3.45*1	249	558.8*7 /457.2*7	<input type="text" value="15.9"/> (15.9*2,*7) (14.3*2,*7)	SM41B*7	*29 残留熱除去系熱交換器 B ～ B 系統代替循環冷却系 ポンプ吸込管分岐点	変更なし	変更なし	変更なし		SGV410
			457.2	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2)	SM41B				変更なし		SGV410
			457.2*7	14.3*2,*7	STPT42*4				—		
			—						457.2 /457.2 /457.2	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2) (14.3*2) (14.3*2)	SGV410
*15 B 系統代替循環冷却系 ポンプ吸込管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器 B 出口管合流点	3.45*1	174	457.2	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2)	SM41B	*31 B 系統代替循環冷却系 ポンプ吸込管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器 B 出口管合流点	変更なし				
*15 残留熱除去系熱交換器 B 出口管合流点 ～ B 系統代替循環冷却系 ポンプ吐出管合流点	3.45*1	174	457.2	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2)	SM41B	*31 残留熱除去系熱交換器 B 出口管合流点 ～ B 系統代替循環冷却系 ポンプ吐出管合流点	変更なし				
			457.2*7	14.3*2,*7	STPT42*4						
*15 B 系統代替循環冷却系 ポンプ吐出管合流点 ～ B 系統テスト配管分岐点	3.45*1	174	—			*32 B 系統代替循環冷却系 ポンプ吐出管合流点 ～ B 系統テスト配管分岐点	変更なし	変更なし	457.2 /457.2 /216.3	14.3*2 /14.3*2 /8.2*2	STPT410
			457.2	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2)	SM41B				変更なし		

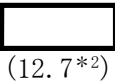
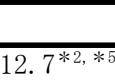
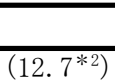

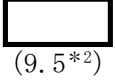
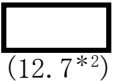
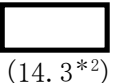
(続き)

変		更		前			変		更		後		
名	称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名	称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
残 留 熱 除 去 系	*15 B 系統テスト配管分岐点 ～ B 系統 サプレッション・チェンバ スプレイ配管分岐点	3.45*1	174	457.2	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2)	SM41B	残 留 熱 除 去 系	*34 B 系統テスト配管分岐点 ～ B 系統 サプレッション・チェンバ スプレイ配管分岐点	変更なし				
	*15 B 系統 サプレッション・チェンバ スプレイ配管分岐点 ～ 低圧代替注水系 残留熱除去系 配管 B 系合流点	3.45*1	174	457.2	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2)	SM41B		*34 B 系統 サプレッション・チェンバ スプレイ配管分岐点 ～ 低圧代替注水系 残留熱除去系 配管 B 系合流点	変更なし				
	457.2*7 /406.4*7			<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2,*7) (12.7*2,*7)	SM41B*7								
	406.4			<input type="text" value="12.7"/> (12.7*2,*5)	SM50B								
	*15 低圧代替注水系 残留熱除去系 配管 B 系合流点 ～ 格納容器スプレイヘッド B (ドライウエル側)	3.45*1	174	—				*35 低圧代替注水系 残留熱除去系 配管 B 系合流点 ～ 格納容器スプレイヘッド B (ドライウエル側)	変更なし	変更なし	406.4	12.7*2	STPT410
	406.4			<input type="text" value="12.7"/> (12.7*2,*5)	SM50B	/406.4					/12.7*2		
	*16 残留熱除去系熱交換器 A バイパス管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器 A 出口管合流点	3.45*1	174	457.2	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2)	SM41B		*30 残留熱除去系熱交換器 A バイパス管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器 A 出口管合流点	変更なし				
	*16 残留熱除去系熱交換器 B バイパス管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器 B 出口管合流点	3.45*1	174	457.2	<input type="text" value="14.3"/> (14.3*2)	SM41B		*30 残留熱除去系熱交換器 B バイパス管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器 B 出口管合流点	変更なし				
457.2*7	14.3*2,*7			STPT42*4									

(続き)

変		更		前			変		更		後			
名	称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名	称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	
残 留 熱 除 去 系	*17 サブプレッション・チェンバ ～ 弁 E12-F004C	0.86*1	100	609.6	 (9.5*2,*5)	SM41B	*30 サブプレッション・チェンバ ～ 弁 E12-F004C	変更なし	変更なし 148*3	変更なし				
	*17 弁 E12-F004C ～ 残留熱除去系ポンプ C 吸込管合流点	0.86*1	100	609.6	 (9.5*2)	SM41B	*30 弁 E12-F004C ～ 残留熱除去系ポンプ C 吸込管合流点	変更なし	変更なし 148*3	変更なし				
	*17 残留熱除去系ポンプ C 吸込管合流点 ～ 残留熱除去系ポンプ C	0.86*1	100	609.6	 (9.5*2,*5)	SM41B	*30 残留熱除去系ポンプ C 吸込管合流点 ～ 残留熱除去系ポンプ C	変更なし	変更なし 148*3	変更なし				
	*18 残留熱除去系ポンプ C ～ 低圧代替注水系残留熱除去系 配管 C 系合流点	3.45*1	100	355.6*7	11.1*2,*7		STPT42*4	*30 残留熱除去系ポンプ C ～ 低圧代替注水系残留熱除去系 配管 C 系合流点	変更なし	変更なし 148*3	変更なし			
				457.2*7 /355.6*7		(14.3*2,*7) (11.1*2,*7)								SM41B*7
				457.2		(14.3*2)								SM41B
				457.2*7	14.3*2,*7		STPT42*4							
	*18 低圧代替注水系残留熱除去系 配管 C 系合流点 ～ C 系統低圧注水系配管分岐点	3.45*1	100	—			*36 低圧代替注水系残留熱除去系 配管 C 系合流点 ～ C 系統低圧注水系配管分岐点	変更なし	変更なし 148*3	457.2 /457.2 /216.3	14.3*2 /14.3*2 /8.2*2	STPT410		
				457.2		(14.3*2)				SM41B	変更なし			
				457.2*7	14.3*2,*7					STPT42*4				
*18 C 系統低圧注水系配管分岐点 ～ 弁 E12-F042C	3.45*1	100	457.2	 (14.3*2)		SM41B	*36 C 系統低圧注水系配管分岐点 ～ 弁 E12-F042C	変更なし	変更なし 148*3	変更なし				
			457.2*7	14.3*2,*7		STPT42*4								
			457.2*7 /318.5*7		(14.3*2,*7) (10.3*2,*7)								SM41B*7	

(続き)

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
残 留 熱 除 去 系	*19 A 系統テスト配管分岐点 ～ A 系統 サプレッション・チェンバ スプレイ配管分岐点	3.45*1	174	406.4	 (12.7*2)	SM50B	*37 A 系統テスト配管分岐点 ～ A 系統 サプレッション・チェンバ スプレイ配管分岐点	変更なし			
	*19 A 系統 サプレッション・チェンバ スプレイ配管分岐点 ～ A 系統代替循環冷却系 テスト配管合流点	3.45*1	174	406.4	 (12.7*2,*5)	SM50B	*38 A 系統 サプレッション・チェンバ スプレイ配管分岐点 ～ A 系統代替循環冷却系 テスト配管合流点	変更なし			
		3.45*1	100	406.4	 (12.7*2)	SM50B		変更なし	変更なし 148*3	変更なし	
		0.86*1	100	406.4	 (9.5*2)	SM41B		変更なし	変更なし 148*3	変更なし	
	*19 A 系統代替循環冷却系 テスト配管合流点 ～ サプレッション・チェンバ	0.86*1	100	406.4	 (9.5*2)	SM41B	*39 A 系統代替循環冷却系 テスト配管合流点 ～ サプレッション・チェンバ	変更なし	変更なし 148*3	変更なし	
				406.4*7	9.5*2,*7	STPT38*4					
				406.4*7	9.5*2,*7	STPT42*4					
				406.4	 (12.7*2)	SM50B					
	*19 B 系統テスト配管分岐点 ～ B 系統代替循環冷却系 原子炉注水配管合流点	3.45*1	174	457.2	 (14.3*2)	SM41B	*40 B 系統テスト配管分岐点 ～ B 系統代替循環冷却系 原子炉注水配管合流点	変更なし			
				457.2*7	14.3*2,*7	STPT42*4					



(続き)

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
*19 B系統代替循環冷却系 原子炉注水配管合流点 ～ B系統原子炉停止時冷却系 配管分岐点	3.45*1	174	—			B系統代替循環冷却系 原子炉注水配管合流点 ～ B系統原子炉停止時冷却系 配管分岐点	変更なし	変更なし	457.2 /457.2 /216.3	14.3*2 /14.3*2 /8.2*2	STPT410
			457.2	□ (14.3*2)	SM41B						
			457.2*7	14.3*2,*7	STPT42*4						
*19 B系統原子炉停止時冷却系 配管分岐点 ～ B系統低圧注水系 配管分岐点	3.45*1	174	457.2	□ (14.3*2)	SM41B	*41 B系統原子炉停止時冷却系 配管分岐点 ～ B系統低圧注水系 配管分岐点	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	
			457.2*7	14.3*2,*7	STPT42*4						
*19 B系統低圧注水系 配管分岐点 ～ B系統代替循環冷却系 テスト配管合流点	3.45*1	174	457.2	□ (14.3*2)	SM41B	*38 B系統低圧注水系 配管分岐点 ～ B系統代替循環冷却系 テスト配管合流点	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	
			457.2*7	14.3*2,*7	STPT42*4						
			457.2*7 /406.4*7	□ (14.3*2,*7) (12.7*2,*7)	SM41B*7						
			406.4	□ (12.7)	SM50B						
	3.45*1	100	406.4	□ (12.7*2,*5)	SM50B	変更なし	変更なし 148*3	変更なし			
	0.86*1	100	406.4	□ (9.5*2)	SM41B	変更なし	変更なし 148*3	変更なし			
		406.4*7	9.5*2,*7	STPT38*4							

(続き)

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
*19 B 系統代替循環冷却系 テスト配管合流点 ～ サプレッション・チェンバ	0.86*1	100	—			*39 B 系統代替循環冷却系 テスト配管合流点 ～ サプレッション・チェンバ	変更なし	変更なし 148*3	406.4	12.7*2	STPT410
			/406.4	/12.7*2							
			/216.3	/8.2*2							
			変更なし								
*19 C 系統低圧注水系配管分岐点 ～ C 系統低圧注水系配管合流点	3.45*1	100	406.4	□ (9.5*2)	SM41B	—*6	—*6	—*6	—*6	—*6	
			406.4*7	9.5*2,*7	STPT38*4						
			406.4*7	9.5*2,*7	STPT42*4						
*20 A 系統ドライウェルスプレイ 配管分岐点 ～ A 系統原子炉停止時冷却系 配管分岐点	3.45*1	174	406.4	□ (12.7*2)	SM50B	*30 A 系統ドライウェルスプレイ 配管分岐点 ～ A 系統原子炉停止時冷却系 配管分岐点	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	
			457.2	□ (14.3*2)	SM41B						
			457.2*7 /406.4*7	□ (14.3*2,*7) (12.7*2,*7)	SM41B*7						
*20 A 系統原子炉停止時冷却系 配管分岐点 ～ A 系統代替循環冷却系 原子炉注水配管合流点	3.45*1	174	406.4	□ (12.7*2)	SM50B	*30 A 系統原子炉停止時冷却系 配管分岐点 ～ A 系統代替循環冷却系 原子炉注水配管合流点	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	
			457.2	□ (14.3*2)	SM41B						
			457.2*7 /355.6*7	□ (14.3*2,*7) (11.1*2,*7)	SM41B*7						
			355.6	11.1*2,*5	STPT42						
			355.6	11.1*2	STPT410*46						

(続き)

変		更		前			変		更		後		
名	称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名	称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
残 留 熱 除 去 系	*20 A 系統代替循環冷却系 原子炉注水配管合流点 ～ 弁 E12-F042A	3.45*1	174	—			*42 A 系統代替循環冷却系 原子炉注水配管合流点 ～ 弁 E12-F042A	変更なし	変更なし	355.6 /355.6 /216.3	11.1*2 /11.1*2 /8.2*2	STPT410	変更なし
				355.6	11.1*2,*5	STPT42							
				355.6*7 /318.5*7	11.1*2,*7 /10.3*2,*7	STPT42*7							
	*20 B 系統低圧注水系配管分岐点 ～ 弁 E12-F042B	3.45*1	174	355.6	11.1*2	STPT42	*42 B 系統低圧注水系配管分岐点 ～ 弁 E12-F042B	変更なし	変更なし	355.6 /355.6 /216.3	11.1*2 /11.1*2 /8.2*2	STPT410	変更なし
				355.6*4 /—*4 /355.6*4	11.1*2,*4 /—*4 /11.1*2,*4	STPT42*4							
				355.6*7 /318.5*7	11.1*2,*7 /10.3*2,*7	STPT42*7							
	*21 A 系統原子炉停止時冷却系 配管分岐点 ～ 弁 E12-F053A	3.45*1	174	355.6	11.1*2,*5	STPT42	*43 A 系統 サプレッション・チェンバ スプレイ配管分岐点 ～ 格納容器スプレイヘッド (サプレッション・ チェンバ側)	変更なし	変更なし	114.3 /114.3 /—	6.0*2 /6.0*2 /—	STPT410	変更なし
				355.6*7 /318.5*7	11.1*2,*7 /10.3*2,*7	STPT42*7							
				318.5	10.3*2	STPT42							
	*21 B 系統原子炉停止時冷却系 配管分岐点 ～ 弁 E12-F053B	3.45*1	174	355.6	11.1*2,*5	STPT42	*43 A 系統 サプレッション・チェンバ スプレイ配管分岐点 ～ 格納容器スプレイヘッド (サプレッション・ チェンバ側)	変更なし	変更なし	114.3 /114.3 /—	6.0*2 /6.0*2 /—	STPT410	変更なし
				355.6*4 /318.5*4	11.1*2,*4 /10.3*2,*4	STPT42*4							
	*22 A 系統 サプレッション・チェンバ スプレイ配管分岐点 ～ 格納容器スプレイヘッド (サプレッション・チェンバ側)	3.45*1	174	114.3	6.0*2	STPT42	*43 A 系統 サプレッション・チェンバ スプレイ配管分岐点 ～ 格納容器スプレイヘッド (サプレッション・ チェンバ側)	変更なし	変更なし	114.3 /114.3 /—	6.0*2 /6.0*2 /—	STPT410	変更なし
3.45*1		77	—	—	—								

(続き)

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
*22 B系統 サプレッション・チェンバ スプレイ配管分岐点 ～ 格納容器スプレイヘッド (サプレッション・チェンバ側)	3.45*1	174	114.3	6.0*2,*5	STPT42	*43 B系統 サプレッション・チェンバ スプレイ配管分岐点 ～ 格納容器スプレイヘッド (サプレッション・ チェンバ側)	変更なし	変更なし	変更なし		
	3.45*1	77	114.3	6.0*2,*5	STPT42		変更なし	変更なし 148*3			
*23 弁 E12-F042A ～ 弁 E12-F041A	8.62*1	302	318.5	17.4*2,*5	STS49	*42 弁 E12-F042A ～ 弁 E12-F041A	変更なし				
			318.5	<input type="text" value="17.4*2"/>	GSTPL 相当 <input type="text" value=""/>					—*6	
*23 弁 E12-F041A ～ 原子炉压力容器	8.62*1	302	318.5	17.4*2,*5	STS49	*42 弁 E12-F041A ～ 原子炉压力容器	変更なし				
			318.5	17.4*2,*5	STS49					—*6	
*23 弁 E12-F042B ～ 弁 E12-F041B	8.62*1	302	318.5	17.4*2,*5	STS49	*42 弁 E12-F042B ～ 弁 E12-F041B	変更なし				
			318.5	<input type="text" value="17.4*2"/>	GSTPL 相当 <input type="text" value=""/>					—*6	
*23 弁 E12-F041B ～ 原子炉压力容器	8.62*1	302	318.5	17.4*2,*5	STS49	*42 弁 E12-F041B ～ 原子炉压力容器	変更なし				
*24 弁 E12-F042C ～ 弁 E12-F041C	8.62*1	302	318.5	17.4*2,*5	STS49	*44 弁 E12-F042C ～ 弁 E12-F041C	変更なし				
			318.5	<input type="text" value="17.4*2"/>	GSTPL 相当 <input type="text" value=""/>					—*6	
*24 弁 E12-F041C ～ 原子炉压力容器	8.62*1	302	318.5	17.4*2,*5	STS49	*44 弁 E12-F041C ～ 原子炉压力容器	変更なし				

(続き)

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
弁 E12-F053A ～ 弁 E12-F050A	10.7	302	318.5*4	<input type="text"/> (25.4*2,*4)	SUSF316*4	変更なし					
			318.5	<input type="text"/> (25.4*2)	SUS304TP	—*6					
			318.5*4	25.4*2,*4	SUS316TP*4	変更なし					
弁 E12-F050A ～ 再循環系ポンプ A 吐出管合流点	10.7	302	318.5*4	<input type="text"/> (25.4*2,*4)	SUSF316*4	変更なし					
			318.5	25.4*2,*5	SUS304TP	変更なし					
弁 E12-F053B ～ 弁 E12-F050B	10.7	302	318.5	<input type="text"/> (25.4*2)	SUSF316	変更なし					
			318.5	<input type="text"/> (25.4*2)	SUS304TP	—*6					
			318.5	25.4*2	SUS316TP	変更なし					
弁 E12-F050B ～ 再循環系ポンプ B 吐出管合流点	10.7	302	318.5	25.4*2,*5	SUS304TP	変更なし					
弁 G41-F016 ～ 燃料プール冷却浄化系 配管分岐点	1.52*1	174	267.4	9.3*2,*5	STPT42	変更なし					
B 系統燃料プール冷却浄化系 配管分岐点及び A 系統燃料プール冷却浄化系 配管分岐点 ～ 弁 G41-F036	3.45*1	174	267.4	9.3*2,*5	STPT42	変更なし					
			267.4*4	9.3*2,*4,*5	STPT410*4	変更なし					
			267.4*4 /267.4*4 /267.4*4	9.3*2,*4 /9.3*2,*4 /9.3*2,*4	STPT410*4	変更なし					

(続き)

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
残留熱除去系	A系統原子炉注水管分岐点 ～ 残留熱除去系 原子炉注水管合流点	3.45*1	174	165.2	7.1*2,*5	残留熱除去系	変更なし				
		8.62*1	302	165.2	11.0*2,*5						

注記 \* 1: S I 単位に換算したもの。

\* 2: 公称値を示す。

\* 3: 重大事故等時における使用時の値を示す。

\* 4: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

\* 5: エルボにあっては、管と同等以上の厚さのものを選定。

\* 6: 当該ラインについて、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。

\* 7: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 51 年 8 月 30 日付け 建建発第 98 号にて軽微変更を届け出た工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 残留熱除去系配管の規格計算書」による。

\* 8: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成 9 年 12 月 5 日付け 発管業発第 153 号にて届け出た工事計画の添付書類「Ⅳ-2-1-2 残留熱除去系主配管の基本板厚計算書」による。

\* 9: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-3 残留熱除去系配管の規格計算書」による。

\* 10: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「残留熱除去系ストレーナからサブプレッションチェンバ」と記載。

\* 11: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「サブプレッションチェンバよりポンプ A・B 吸込口まで (ポンプ A・B 吸込管)」と記載。

\* 12: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉再循環系よりポンプ A B C 吸込管の原子炉格納容器外側隔離弁まで」と記載。

\* 13: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉再循環系 (原子炉格納容器外側隔離弁) よりポンプ A B C 吸込管まで」と記載。

\* 14: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ポンプ A・B 吐出口より熱交換器入口まで (ポンプ A・B 吐出管)」と記載。

\* 15: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「熱交換器出口より格納容器スプレーヘッドまで (熱交換器出口管)」と記載。

\* 16: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ポンプ A・B 吐出管より熱交換器出口管へのバイパス管」と記載。

\* 17: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「サブプレッションチェンバよりポンプ C 吸込口まで (ポンプ C 吸込管)」と記載。

\* 18: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ポンプ C 吐出口より原子炉格納容器外側隔離弁まで (ポンプ C 吐出管)」と記載。

\* 19: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「熱交換器出口管およびポンプ C 吐出管よりサブプレッションチェンバまで (テスト配管)」と記載。

\* 20: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A 系統熱交換器出口管および B 系統テスト配管より原子炉格納容器外側隔離弁まで (原子炉注入管)」と記載。

\* 21: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A 系統原子炉注入管および B 系統テスト配管より原子炉再循環系へ (原子炉格納容器外側隔離弁まで)」と記載。

\* 22: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A 系統テスト配管および B 系統熱交換器出口管よりサブプレッションチェンバースプレーヘッドへ」と記載。

\* 23: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A 系統熱交換器出口管及び B 系統テスト配管の原子炉格納容器外側隔離弁より原子炉圧力容器まで (原子炉注入管)」と記載。

\* 24: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ポンプ C 吐出管原子炉格納容器外側隔離弁より原子炉圧力容器まで (ポンプ C 吐出管)」と記載。

\* 25: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A 系統原子炉注入管及び B 系統テスト配管の原子炉格納容器外側隔離弁より原子炉再循環系まで」と記載。

\* 26: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料プール冷却浄化系より上記配管まで」と記載。

\* 27: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「B 系統テスト配管より燃料プール冷却浄化系へ」と記載。

\* 28: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A 系統原子炉注入管より原子炉隔離時冷却系へ」と記載。

\* 29: 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (低圧注水系, 代替循環冷却系) 及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器スプレー冷却系, サプレッション・プール冷却系, 代替循環冷却系)

と兼用。

\*30：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧注水系）と兼用。

\*31：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧注水系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器スプレイ冷却系，サブプレッション・プール冷却系）と兼用。

\*32：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧注水系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器スプレイ冷却系，サブプレッション・プール冷却系，代替循環冷却系）と兼用。

\*33：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器スプレイ冷却系，サブプレッション・プール冷却系，代替循環冷却系）と兼用。

\*34：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器スプレイ冷却系，代替循環冷却系）と兼用。

\*35：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器スプレイ冷却系，代替格納容器スプレイ冷却系，代替循環冷却系）と兼用。

\*36：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧注水系，低圧注水代替系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（低圧代替注水系）と兼用。

\*37：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器スプレイ冷却系，サブプレッション・プール冷却系）と兼用。

\*38：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（サブプレッション・プール冷却系）と兼用。

\*39：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（サブプレッション・プール冷却系，代替循環冷却系）と兼用。

\*40：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧注水系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（サブプレッション・プール冷却系）と兼用。

\*41：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧注水系，代替循環冷却系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（サブプレッション・プール冷却系，代替循環冷却系）と兼用。

\*42：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧注水系，代替循環冷却系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（代替循環冷却）と兼用。

\*43：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器スプレイ冷却系）と兼用。

\*44：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧注水系，低圧代替注水系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（低圧代替注水系）と兼用。

\*45：当該配管は，その機能及び構造上の耐圧機能を必要としないため，最高使用圧力を設定しないが，ここでは，サブプレッション・チェンバの最高使用圧力を[ ]内に示す。

\*46：STPT42 同等材（STPT410）への取替えを行う。

以下の設備は、既存の原子炉冷却材再循環設備（原子炉冷却材再循環系）であり、残留熱除去設備（残留熱除去系）として本工事計画で兼用とする。

原子炉压力容器～再循環系ポンプ吸込管分岐点

原子炉冷却材再循環ポンプ A, B 吐出管合流点～マニホールド管

マニホールド管

マニホールド管～ジェットポンプへの供給管



以下の設備は、既存の原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他安全設備（格納容器スプレイヘッド）であり、残留熱除去設備（残留熱除去系）として本工事計画で兼用とする。

格納容器スプレイヘッド A（ドライウエル側）

格納容器スプレイヘッド B（ドライウエル側）

格納容器スプレイヘッド（サブプレッション・チェンバ側）

以下の設備のうち管は、既存の原子炉格納施設のうち原子炉格納容器（貫通部）であり、残留熱除去設備（残留熱除去系）として本工事計画で兼用とする。

原子炉格納容器配管貫通部 X-11A

原子炉格納容器配管貫通部 X-11B

原子炉格納容器配管貫通部 X-19A

原子炉格納容器配管貫通部 X-19B

原子炉格納容器配管貫通部 X-20

原子炉格納容器配管貫通部 X-25A

原子炉格納容器配管貫通部 X-25B

原子炉格納容器配管貫通部 X-32

原子炉格納容器配管貫通部 X-35

原子炉格納容器配管貫通部 X-47

原子炉格納容器配管貫通部 X-48

表1 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の主要設備リスト（7/43）

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後					
			名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
原子炉冷却材の循環設備	漏えい抑制系 主蒸気隔離弁	主配管	B22-F028 ～ 低圧マニホールド B 入口配管分岐点 ～ サプレッション・チェンバ	S	クラス2 クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			低圧マニホールド B 入口配管分岐点 ～ 弁 E32-F002 (E, F, G, H)	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—		
			弁 B22-F028 と弁 B22-F098 間の主蒸気管 ～ 低圧マニホールド A 入口配管分岐点 ～ サプレッション・チェンバ	S	クラス2 クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			低圧マニホールド A 入口配管分岐点 ～ 弁 E32-F002 (A, B, C, D)	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—		
残留熱除去設備	残留熱除去系	熱交換器	残留熱除去系熱交換器	S	クラス2	—	—	変更なし	常設耐震/防止	SAクラス2		
		ポンプ	残留熱除去系ポンプ A	S	クラス2	—	—	変更なし	常設耐震/防止	SAクラス2		
			残留熱除去系ポンプ B	S	クラス2	—	—	変更なし	常設耐震/防止	SAクラス2		
			残留熱除去系ポンプ C	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—		
		ろ過装置	残留熱除去系ストレーナ A	S	クラス2	—	—	変更なし	常設耐震/防止	SAクラス2		
			残留熱除去系ストレーナ B	S	クラス2	—	—	変更なし	常設耐震/防止	SAクラス2		
			残留熱除去系ストレーナ C	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—		
		安全弁及び逃がし弁	E12-F005	S	—	—	—	変更なし	常設耐震/防止	—		
			E12-F025A	S	—	—	—	変更なし	常設耐震/防止	—		
			E12-F025B	S	—	—	—	変更なし	常設耐震/防止	—		
			E12-F025C	S	—	—	—	変更なし	—	—		

表1 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の主要設備リスト（8/43）

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後					
			名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
残留熱除去設備	残留熱除去系	安全弁及び逃がし弁	E12-FF028	S	—	—	—	変更なし			常設耐震/防止	—
		主要弁	E12-F008	S	クラス2	—	—	変更なし		クラス1	—	—
			E12-F009	S	クラス1	—	—	変更なし			—	—
			E12-F050A	S	クラス1	—	—	変更なし			—	—
			E12-F050B	S	クラス1	—	—	変更なし			—	—
			E12-F053A, B	S	クラス2	—	—	変更なし		クラス1	—	—
			E12-F041A, B, C	S	クラス1	—	—	変更なし			—	—
			E12-F042A, B, C	S	クラス1	—	—	変更なし			—	—
			E12-F023	S	クラス2	—	—	変更なし			—	—
			E12-F027A, B	S	クラス2	—	—	変更なし			—	—
			E12-F024A, B	S	クラス2	—	—	変更なし			—	—
			E12-F048A, B	S	クラス2	—	—	変更なし			—	—
			主配管	残留熱除去系ストレナA ～ サプレッション・チェンバ	S	クラス2	—	—	変更なし			常設耐震/防止
		残留熱除去系ストレナB ～ サプレッション・チェンバ		S	クラス2	—	—	変更なし			常設耐震/防止	SAクラス2
		残留熱除去系ストレナC ～ サプレッション・チェンバ		S	クラス2	—	—	変更なし			—	—
		サプレッション・チェンバ ～ 弁E12-F004A		S	クラス2	—	—	変更なし			常設耐震/防止	SAクラス2

表1 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の主要設備リスト（9/43）

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後					
			名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
残留熱除去設備	残留熱除去系	主配管	弁E12-F004A ～ 残留熱除去系ポンプA吸込管合流点	S	クラス2	—	変更なし			常設耐震/防止	SAクラス2	
			残留熱除去系ポンプA吸込管合流点 ～ 残留熱除去系ポンプA	S	クラス2	—	変更なし			常設耐震/防止	SAクラス2	
			サプレッション・チェンバ ～ 弁E12-F004B	S	クラス2	—	変更なし			常設耐震/防止	SAクラス2	
			弁E12-F004B ～ 残留熱除去系ポンプB吸込管合流点	S	クラス2	—	変更なし			常設耐震/防止	SAクラス2	
			残留熱除去系ポンプB吸込管合流点 ～ 残留熱除去系ポンプB	S	クラス2	—	変更なし			常設耐震/防止	SAクラス2	
			再循環系ポンプ吸込管分岐点 ～ 弁E12-F009	S	クラス1	—	変更なし			常設耐震/防止	SAクラス2	
			弁E12-F009 ～ 弁E12-F008	S	クラス2	—	変更なし		クラス1	常設耐震/防止	SAクラス2	
			弁E12-F008 ～ 原子炉停止時冷却系配管分岐点	S	クラス2	—	変更なし			常設耐震/防止	SAクラス2	
			原子炉停止時冷却系配管分岐点 ～ 残留熱除去系ポンプA吸込管合流点	S	クラス2	—	変更なし			常設耐震/防止	SAクラス2	
			原子炉停止時冷却系配管分岐点 ～ 残留熱除去系ポンプB吸込管合流点	S	クラス2	—	変更なし			常設耐震/防止	SAクラス2	
			残留熱除去系ポンプC吸込管分岐点 ～ 残留熱除去系ポンプC吸込管合流点	S	クラス2	—	—*2					
			残留熱除去系ポンプA ～ 残留熱除去系熱交換器Aバイパス管分岐点	S	クラス2	—	変更なし			常設耐震/防止	SAクラス2	
			残留熱除去系熱交換器Aバイパス管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器A	S	クラス2	—	変更なし			常設耐震/防止	SAクラス2	
			残留熱除去系ポンプB ～ 残留熱除去系熱交換器Bバイパス管分岐点	S	クラス2	—	変更なし			常設耐震/防止	SAクラス2	

表1 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の主要設備リスト（10/43）

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後					
			名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
残留熱除去設備	残留熱除去系	主配管	残留熱除去系熱交換器Bバイパス管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器B	S	クラス2	—	変更なし	常設耐震/防止	SAクラス2			
			残留熱除去系熱交換器A ～ A系統代替循環冷却系ポンプ吸込管分岐点	S	クラス2	—	変更なし	常設耐震/防止	SAクラス2			
			A系統代替循環冷却系ポンプ吸込管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器A出口管合流点	S	クラス2	—	変更なし	常設耐震/防止	SAクラス2			
			残留熱除去系熱交換器A出口管合流点 ～ A系統代替循環冷却系ポンプ吐出管合流点	S	クラス2	—	変更なし	常設耐震/防止	SAクラス2			
			A系統代替循環冷却系ポンプ吐出管合流点 ～ A系統ドライウェルスプレイ配管分岐点	S	クラス2	—	変更なし	常設耐震/防止	SAクラス2			
			A系統ドライウェルスプレイ配管分岐点 ～ A系統テスト配管分岐点	S	クラス2	—	変更なし	常設耐震/防止	SAクラス2			
			A系統テスト配管分岐点 ～ 低圧代替注水系残留熱除去系配管A系合流点	S	クラス2	—	変更なし	常設耐震/防止	SAクラス2			
			低圧代替注水系残留熱除去系配管A系合流点 ～ A系統原子炉注水管分岐点	S	クラス2	—	変更なし	常設耐震/防止	SAクラス2			
			A系統原子炉注水管分岐点 ～ 格納容器スプレイヘッダA(ドライウェル側)	S	クラス2	—	変更なし	常設耐震/防止	SAクラス2			
			格納容器スプレイヘッダA(ドライウェル側) ～ 残留熱除去系熱交換器B	S	クラス2	—	変更なし	常設耐震/防止	SAクラス2			
			残留熱除去系熱交換器B ～ B系統代替循環冷却系ポンプ吸込管分岐点	S	クラス2	—	変更なし	常設耐震/防止	SAクラス2			
			B系統代替循環冷却系ポンプ吸込管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器B出口管合流点	S	クラス2	—	変更なし	常設耐震/防止	SAクラス2			
			残留熱除去系熱交換器B出口管合流点 ～ B系統代替循環冷却系ポンプ吐出管合流点	S	クラス2	—	変更なし	常設耐震/防止	SAクラス2			
			B系統代替循環冷却系ポンプ吐出管合流点 ～ B系統テスト配管分岐点	S	クラス2	—	変更なし	常設耐震/防止	SAクラス2			

表1 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の主要設備リスト（11/43）

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後					
			名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
残留熱除去設備	残留熱除去系	主配管	B系統テスト配管分岐点 ～ B系統サプレッション・チェンバ スプレイ配管分岐点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	常設耐震／防止	SAクラス2
			B系統サプレッション・チェンバ スプレイ配管分岐点 ～ 低圧代替注水系残留熱除去系配管B系合流点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	常設耐震／防止	SAクラス2
			低圧代替注水系残留熱除去系配管B系合流点 ～ 格納容器スプレイヘッドB(ドライウエル側)	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	常設耐震／防止	SAクラス2
			残留熱除去系熱交換器Aバイパス管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器A出口管合流点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—
			残留熱除去系熱交換器Bバイパス管分岐点 ～ 残留熱除去系熱交換器B出口管合流点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—
			サプレッション・チェンバ ～ 弁E12-F004C	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—
			弁E12-F004C ～ 残留熱除去系ポンプC吸込管合流点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—
			残留熱除去系ポンプC吸込管合流点 ～ 残留熱除去系ポンプC	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—
			残留熱除去系ポンプC ～ 低圧代替注水系残留熱除去系配管C系合流点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—
			低圧代替注水系残留熱除去系配管C系合流点 ～ C系統低圧注水系配管分岐点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—
			C系統低圧注水系配管分岐点 ～ 弁E12-F042C	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—
			A系統テスト配管分岐点 ～ A系統サプレッション・チェンバ スプレイ配管分岐点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	常設耐震／防止	SAクラス2

表1 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の主要設備リスト（12/43）

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後						
			名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	
残留熱除去設備	残留熱除去系	主配管	A系統サプレッション・チェンバ スプレイ配管分岐点 ～ A系統代替循環冷却系テスト配管合流点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	常設耐震／防止	SAクラス2	
			A系統代替循環冷却系テスト配管合流点 ～ サプレッション・チェンバ	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	常設耐震／防止	SAクラス2	
			B系統テスト配管分岐点 ～ B系統代替循環冷却系原子炉注水配管合流点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	常設耐震／防止	SAクラス2	
			B系統代替循環冷却系原子炉注水配管合流点 ～ B系統原子炉停止時冷却系配管分岐点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	常設耐震／防止	SAクラス2	
			B系統原子炉停止時冷却系配管分岐点 ～ B系統低圧注水系配管分岐点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	常設耐震／防止	SAクラス2	
			B系統低圧注水系配管分岐点 ～ B系統代替循環冷却系テスト配管合流点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	常設耐震／防止	SAクラス2	
			B系統代替循環冷却系テスト配管合流点 ～ サプレッション・チェンバ	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	常設耐震／防止	SAクラス2	
			C系統低圧注水系配管分岐点 ～ C系統低圧注水系配管合流点	S	クラス2	—	—	—*2	—	—	—	—	
			A系統ドライウェルスプレイ配管分岐点 ～ A系統原子炉停止時冷却系配管分岐点	S	クラス2	—	—	—	変更なし	—	—	常設耐震／防止	SAクラス2
			A系統原子炉停止時冷却系配管分岐点 ～ A系統代替循環冷却系原子炉注水配管合流点	S	クラス2	—	—	—	変更なし	—	—	—	—
			A系統代替循環冷却系原子炉注水配管合流点 ～ 弁E12-F042A	S	クラス2	—	—	—	変更なし	—	—	—	—
			B系統低圧注水系配管分岐点 ～ 弁E12-F042B	S	クラス2	—	—	—	変更なし	—	—	—	—
			A系統原子炉停止時冷却系配管分岐点 ～ 弁E12-F053A	S	クラス2	—	—	—	変更なし	—	—	常設耐震／防止	SAクラス2



表1 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の主要設備リスト（13/43）

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後					
			名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
残留熱除去設備	残留熱除去系	主配管	B系統原子炉停止時冷却系配管分岐点 ～ 弁E12-F053B	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2
			A系統サブプレッション・チェンバ スプレイ配管分岐点 ～ 格納容器スプレイヘッダ(サブプレッション・ チェンバ側)	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2
			B系統サブプレッション・チェンバスプレイ配 管分岐点 ～ 格納容器スプレイヘッダ(サブプレッション・ チェンバ側)	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2
			弁E12-F042A ～ 弁E12-F041A	S	クラス1	—	—	変更なし	—	—	—	—
			弁E12-F041A ～ 原子炉圧力容器	S	クラス1	—	—	変更なし	—	—	—	—
			弁E12-F042B ～ 弁E12-F041B	S	クラス1	—	—	変更なし	—	—	—	—
			弁E12-F041B ～ 原子炉圧力容器	S	クラス1	—	—	変更なし	—	—	—	—
			弁E12-F042C ～ 弁E12-F041C	S	クラス1	—	—	変更なし	—	—	—	—
			弁E12-F041C ～ 原子炉圧力容器	S	クラス1	—	—	変更なし	—	—	—	—
			弁E12-F053A ～ 弁E12-F050A	S	クラス2	—	—	変更なし	—	クラス1	常設耐震/防止	SAクラス2
			弁E12-F050A ～ 再循環系ポンプA吐出管合流点	S	クラス1	—	—	変更なし	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2
			弁E12-F053B ～ 弁E12-F050B	S	クラス2	—	—	変更なし	—	クラス1	常設耐震/防止	SAクラス2
			弁E12-F050B ～ 再循環系ポンプB吐出管合流点	S	クラス1	—	—	変更なし	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2

表1 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の主要設備リスト（14/43）

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後							
			名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1			
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		
残留熱除去設備	残留熱除去系	主配管	弁G41-F016 ～ 燃料プール冷却浄化系配管合流点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—		
			B系統燃料プール冷却浄化系配管分岐点 及び A系統燃料プール冷却浄化系配管分岐点 ～ 弁G41-F036	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—	—	
			A系統原子炉注水管分岐点 ～ 残留熱除去系原子炉注水管合流点	S	クラス2	—	—	変更なし	—	—	—	—	—	
			原子炉圧力容器 ～ 再循環系ポンプ吸込管分岐点	—	—	—	—	—	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2	—	—
			再循環系ポンプA, B吐出管合流点 ～ マニホールド管	—	—	—	—	—	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2	—	—
			マニホールド管 ～ マニホールド管 ～ ジェットポンプへの供給管	—	—	—	—	—	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2	—	—
			格納容器スプレイヘッドA(ドレイウエル側)	—	—	—	—	—	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2	—	—
			格納容器スプレイヘッドB(ドレイウエル側)	—	—	—	—	—	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2	—	—
			格納容器スプレイヘッド(サブプレッション・チェンバ側)	—	—	—	—	—	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2	—	—
			原子炉格納容器配管貫通部X-11A	—	—	—	—	—	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2	—	—
			原子炉格納容器配管貫通部X-11B	—	—	—	—	—	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2	—	—

表1 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の主要設備リスト（15/43）

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後																																									
			名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1																																					
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス																																				
残留熱除去設備	残留熱除去系	主配管	—	原子炉格納容器配管貫通部X-19A*5	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2	原子炉格納容器配管貫通部X-19B*5	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2	原子炉格納容器配管貫通部X-20*5	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2	原子炉格納容器配管貫通部X-25A	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2	原子炉格納容器配管貫通部X-25B	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2	原子炉格納容器配管貫通部X-32	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2	原子炉格納容器配管貫通部X-35	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2	原子炉格納容器配管貫通部X-47	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2	原子炉格納容器配管貫通部X-48	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2
				格納容器圧力逃がし装置	主配管	—	原子炉格納容器 ～ 弁2-26B-12	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2	原子炉格納容器 ～ 弁2-26B-10	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2	弁2-26B-12 ～ ドライウエル側窒素ガス代替注入系 配管合流点	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2	弁2-26B-10 ～ サプレッション・チェンバ側 窒素ガス代替注入系配管合流点	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2	ドライウエル側窒素ガス 代替注入系配管合流点 及び サプレッション・チェンバ側 窒素ガス代替注入系配管合流点～ 窒素排気管合流点	—	—	常設耐震/防止	SAクラス2																	

注記 \*1：表1に用いる略語の定義は「原子炉本体」の「5 原子炉本体の基本設計方針，適用基準及び適用規格」の「表1 原子炉本体の主要設備リスト 付表1」による。  
 \*2：当該ラインについては，主配管に該当しないため記載の適正化を行う。  
 \*3：「発電用原子力設備規格 設計・建設規格（2005年度（2007年追補版含む））＜第I編 軽水炉規格＞JSME S NC1-2005/2007」（日本機械学会）における「クラス3ポンプ」である。  
 \*4：本設備は記載の適正化のみ行うものであり，手続き対象外である。  
 \*5：格納容器貫通部のうち管を示す。

表2 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の兼用設備リスト（1/10）

設備区分	系統名	機器区分	主たる機能の施設／設備区分	変更前				変更後					
				名称	設計基準対象施設*		重大事故等対処設備*		名称	設計基準対象施設*		重大事故等対処設備*	
					耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
残留熱除去設備	残留熱除去系	—	原子炉本体 炉心	—	—	—	—	炉心シュラウド	—	—	常設耐震／防止	—	
				—	—	—	—	シュラウドサポート	—	—	常設耐震／防止	—	
				—	—	—	—	上部格子板	—	—	常設耐震／防止	—	
				—	—	—	—	炉心支持板	—	—	常設耐震／防止	—	
				—	—	—	—	中央燃料支持金具	—	—	常設耐震／防止	—	
				—	—	—	—	周辺燃料支持金具	—	—	常設耐震／防止	—	
				—	—	—	—	制御棒案内管	—	—	常設耐震／防止	—	
		原子炉本体 原子炉圧力容器	—	—	—	原子炉圧力容器	—	—	常設耐震／防止	SAクラス2			
		原子炉本体 原子炉圧力容器 内部構造物	—	—	—	ジェットポンプ	—	—	常設耐震／防止	—			
		原子炉冷却系統 施設 残留熱除去設備	—	—	—	E12-F042A, B, C	—	—	常設／防止	SAクラス2			
		原子炉格納施設 原子炉格納容器	—	—	—	原子炉格納 容器	—	—	ドライウエル	—	—	常設耐震／防止	SAクラス2
			—	—	—	原子炉格納 容器	—	—	サプレッション・チェンバ	—	—	常設耐震／防止	SAクラス2
			—	—	—	原子炉格納容器 (サプレッション・チェンバ)	—	—	—	—	—	常設耐震／防止	SAクラス2